

近代

第14章 近代の産業と生活 2. 近代文化の発達 (2) 明治の芸術

こうたいし ぎょうけい
明治40年の皇太子(のちの大正天皇)行啓



仁風閣

1907(明治40)年嘉仁皇太子殿下(後の大正天皇)の山陰道行啓の時の宿舎として、旧鳥取藩主14代池田仲博侯爵によって建築。東郷平八郎によって「仁風閣」と命名。片山東熊(赤坂離宮(明治42年落成)等宮廷建築家)設計。実施設計は鳥取出身の橋本平蔵。

鳥取・島根県知事は、1894(明治27)年に明治天皇の臨幸を上奏していたが、日清戦争勃発で実現せず、明治37年再度の上奏も日露戦争のために見送りになっていた。しかし、その後、日露戦後の明治40年に、皇太子(のちの大正天皇)の行啓という形で実現した。

知事の上申文中に、「…鉄道モ境鳥取間開通シ、御旅館ノ設備、道路・橋梁等ノ補修亦完成…」とあるが、「仁風閣(鳥取市)」「飛龍閣(倉吉市)」「鳳翔閣(米子市)」の宿舎は行啓に際して完成したものの、千代川鉄橋が未完成だったため、古海仮駅を開設して使用した。

解説

■嘉仁皇太子の山陰道行啓日程()は宿泊先

5/10	新橋→名古屋(名古屋離宮)	5/26	松江→宍道→今市(遠藤方)
5/11	名古屋→舞鶴(水交社)	5/27	今市→杵築→今市(")
5/12 ~ 13	舞鶴(水交社)	5/28	今市→大田(農学校)
5/14	舞鶴→美保関(戦艦・香取)	5/29	大田→大家(小学校)
5/15	境 →米子(鳳翔閣)	5/30	大家→江津(小学校)
5/16	米子→御来屋→米子(")	5/31	江津→浜田(濱田旅館)
5/17	米子→倉吉(飛龍閣)	6/1 ~ 3	浜田(濱田旅館)
5/18	倉吉→鳥取(扇邸のちの仁風閣)	6/4	浜田→隠岐(御召艦、戦艦・香取)
5/19 ~ 20	鳥取 (")	6/5	隠岐→舞鶴(")
5/21	鳥取→米子→安来(小学校)	6/6	舞鶴→福知山→京都(二条城)
5/22	安来→松江(興雲閣)	6/7 ~ 8	京都 (")
5/23 ~ 25	松江 (")	6/9	京都→東京(東宮御所)

* 5/14 舞鶴→美保関、6/4 ~ 5 浜田→舞鶴は(御召艦「香取」、島根県内は馬車・人力車を、他は主に鉄道(御召列車)を利用。供奉員ほか侍従・馭者など約130人が同行した。

* 6/4 以降は微行。

* 明治40年の行啓では、仁風閣に鳥取県で初の電灯、電話が設置された。

よしひと
■嘉仁皇太子(28才)

明治天皇の第3皇子。後の第123代の大正天皇。

海軍少将、陸軍少将。父明治天皇の高祖母は大江磐代(倉吉市出身)。

生母は柳原愛子(柳原家は因幡に所領があり、応仁の乱の頃、百谷に疎開)。

■池田仲博(30才)

鳥取藩最後の藩主池田慶徳の養嗣子。徳川慶喜の五男。皇太子行啓のために扇邸(のちに仁風閣と命名)を建築。行啓の(県内)来賓。侯爵。

■東郷平八郎(59才)

鹿児島出身。日露戦争時の連合艦隊司令長官。行啓の来賓(列外供奉員)、「仁風閣」の命名者。海軍大将、元帥。

(担当:小山富見男)

参考資料

- 『明治40年 行啓関係』簿冊類(鳥取県立公文書館蔵)
- 鳥取県『新鳥取県史資料編 近代5 行政2・社会・宗教』(2018年)